



TITLE:

十一月の天象

AUTHOR(S):

---

CITATION:

十一月の天象. 天界 1922, 2(23): 240-241

ISSUE DATE:

1922-10-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/159791>

RIGHT:

## 天文と人生

(價二圓二十錢)

であつて、天體と宇宙それに廣い意味の人生が關係する方面のものを集められた。次に素人にも最も親しみ易い遊星の消息は

## 遊星のとりぐ

(價二圓)

の中に收められてゐる、但し太陽系といつても或る計畫のために太陽と月とは含まれてゐない。更に美と愛に憧れる女性に捧げられたものは

## 星空の觀察

(價二圓五十錢)

であつて主に趣味としての天體觀察といふ部類のものが集められてゐる。舊稿或は講演で發表せられたものであるが、大抵は前の發表そのまゝではなくして多少の加筆又は全部書き直し、又は未發表の部分の新しい書き足してゐる。

## 國定教科書星の話解説

右は山本一清氏関水野千里氏著の一小冊子です。本年四月改訂の小學讀本中には星の話が掲載されてゐます、その話を兒童に徹底的に飲み込ませる爲には、天文學の一般的素養と、特に大熊座、小熊座についての相當の智識を必要とする。こゝに於て教師及び家庭への參考書として本書が生れたのです

(價五十錢)

## 肉眼に見える星の研究

山本一清氏の序説、吉田源次郎氏著である。主としてフランス天文學會員ヘクター・マクファーンソン氏著「肉眼實際天文學」に由つて書かれたもの、天文趣味を、民衆の生活に供するための努力で何んな素人が

見ても直ぐわかる様一々肉眼に見える星座の圖を挿入し古人の心に湧いた傳説を記載してある。

(價三圓五十錢)

## 十一月の天象

太陽——十一月中の太陽の赤經は十四時二十四分から十六時二十七分迄増加し、赤緯は南十四度十六分から二十一度四十四分迄變化する  
八日午後一時四十六分立冬節。二十三日午前十時五十六分天蠍宮より秋の第三の宮なる人馬宮に入る。

小雪節

月——五日午前三時三十六分滿月。十二日午後四時五十分下弦月。  
十九日午前九時六分新月。二十六日午後五時十五分上弦月。十七日午前九時近地點に二十九日午前四時遠地點に來る

水星——十五日には赤經十四時三十五分、赤緯南十三時三十七分即ち天秤座ミュー號附近にあり。月始め一週間程の間は容易に觀測し得れども其後は太陽に近接して十一月の残りの期間は大體太陽の光の爲めに吞まれてしまふ。一日午前十一時最大離隔(太陽の西方十八度三十八分)四日午前六時北方最大日心黃緯。十一日午前六時四十五分木星と合(水星は北〇度四十七分にあり)十八日午後一時十分下弦月と合(水星は南二度四十二分にあり)一十七日午後五時降交點にあり二十八日午前十時五十四分金星と合(水星は北一度二十六分にあり)

**金星**——十五日には赤經十六時二十分、赤緯南二十五度四十八分即ち

蠍座にあり。金星は迅速に太陽に近接しつゝ、あり、二十五日午後三時には太陽と退合となり、その後曉天の星となる。五日午前六時留十九日午後十時三十分下弦月と合(金星は南八度十分にある)

**火星**——十五日には赤經二十時五十六分、赤緯南十九時八分即ち山羊

座シータ星附近にあり。光度は今や〇・五等にて漸々減少しつゝ、あり。十五日には地球からの距離一億一千〇三十萬四千哩。二十二日山羊座星(四・三等)と合(火星は其南十分にある)二十五日午後二時七分下弦月と合(火星は南四度五十三分にある)

**木星**——十五日には赤經十四時九分、赤緯南十一度五十八分即ち乙女

座ラムダ星に近づきつゝ、あり。曉の星にして日出前一時四十分にして昇る。二十一日には乙女座ラムダ星(四・六等)と合となる(木星は其の北四十分にある)十七日午後九時二十八分下弦月と合(木星は南二時三分にある)

**土星**——十五日には赤經十三時一分、赤緯南四度三分即ち乙女座シ

ータ星附近にあり。十五日には曉星にして日出前二時四十分にして昇る。本月及來月中の光度は一・〇等である。十六日午後四時十二分下弦月と合(土星は北〇度四十七分にある)

**天王星**——十五日には赤經二十二時四十六分赤緯南八度四十分即ち

水瓶座ラムダ星附近を逆行中である。二十日午前十一時留、二十七日午前七時下弦月と合(天王星は南二度二十六分にある)

**海王星**——十五日には赤經九時三分、赤緯北十六度五十九分即ち蟹

座にあり。曉天の星、十一日午後五時太陽と直角距離(短象)十二日午後五時五十分下弦月と合海王星は北三度三十六分にある)二十一日午後七時留。八等星の光度を有するから肉眼で見えない。

**流星群**——先月より始まり十二月に終る大熊座ミュー星附近よりの

流星群は十六日から二十五日迄が最多数の出現がある。本月中には又牡牛座流星群の出現ありて二十一日には最多数の出現がある、尙九日から二十日迄には獅子座流星群の現るゝあり、十四日から十五日に最も多数現はる。

**アンドロメダ流星群**は二十日から月末迄飛ぶ、二十日から二十三日迄が最も多数に現はれる、  
(E 生)

**アルゴール極水推算**

(中村生)

七日	三時七
十日	〇時五
十二日	九時三
十五日	六時二
廿七日	五時四
三十日	二時三